

ずいそう

冬に想う

堅 田 豊



今年の冬は、雪かきに明け暮れた“平成18年豪雪”と打って変り、全国的な暖冬少雪で、私が居を構えている札幌は、降り積った雪が暖気と季節外れの雨でタイミング良く解け、積雪量が控えめの楽な冬となりました。そのため、今年は春の訪れがいつになく早い予感と、少しでも長く春の気配にひたれる嬉しさを感じている毎日です。

我が家における除雪の移り変わり

今を遡る30年程前の結婚間もない頃（当然、現在よりも多雪であった）、時ならぬ豪雪で、出勤時、玄関ドアを開けるのが困難で、まさしく戸惑う状況になったのを覚えています。当時は民家もさほど密集しておらず、雪捨て場も各所にあり、除雪の苦勞をしたという実感がありません。

その後に住んだ集合住宅では、住宅内の決まりごとで、1週間交替で、2軒1パーティの除雪当番（雪見当番とも言う）を仰せつかりましたが、何せ気まぐれな雪のこと、1週間全く降らなかつたり、1週間毎日降つたりと、自然相手のことながら、その運、不運を天に呪いながら、大変な思いをして、出勤前の除雪をしたものです。

さらに、小宅を構えた10年程前は、近くの空き地に玄関前の除雪後の重たい雪をママさんダンプ（女性も手軽に除雪できるよう、プラスチックで軽量、小型化した排雪用具）で集積、堆雪しますが、この共同空き地への除雪は、冬の運動不足を解消し、健康な発汗と、ご近所との「よく降りますね」という言葉の交わり合いにより、町内コミュニケーション活性化の場となり、冬のささやかな楽しみの一つでもありました。

また、北海道では、道の両側に最も雪が堆積し道幅が狭隘になる2月初旬頃、年に1回の運搬排雪（パートナーシップという制度があり、町内会費と市が経費の半分を補助し、ロータリ除雪車とダンプトラックの組合わせにより実施される）が行われ、夏同様の雪がない住民道路が確保されます。

しかし、近年では住宅が密集し、近くの空き地（雪捨て場）がなくなり、ロードヒーティング、融雪槽等の近代兵器のお世話になるかと頭を悩ましていた4年程前に、民間業者が、運搬排雪を個人から請け負う

「排雪サービス業（12月下旬から3月上旬まで定期的に週1回の排雪を行う）」なるものが起業し、過酷な雪捨て作業からは、かなり解放された冬の生活を過ごしていますが、今では、多数ある請負業者の受け持ち場所を示す旗（錦の御旗）が、各戸の玄関前にはためいており、冬の風物詩ともなっています。

楽しもう、冬のスポーツ

昨年10月札幌ドームでは、北海道日本ハムファイターズが、ご当地札幌で、“シンジラレナ〜イ”プロ野球のリーグ優勝、日本シリーズ優勝決定の胴上げが行われ、大地の響きのような感動を味わいました。

その同じ場所で、今年2月22日に49カ国のトップアスリートたちが集まったノルディックスキー世界選手権札幌大会の開会式と世界初のドーム内での、クロスカントリー女子・男子スプリント決勝を、直接観客席で、私は見てきました。コースは、ドーム内をスタート地点とし、外野席側の開いたスタンドから屋外に出てからUターンしドームに戻りゴールするもので、モニターによる外の走りの中継と、選手がドームに再入場するときは声援で、ものすごく盛り上がりました。

世界のアスリートの強靱な体力と、スキーをはいているとは思えない、とんでもない速さにビックリしました。そのなかでも、日本選手の女子スプリントで入賞（5位）した道産子の夏見 円選手の、目の前のゴール入りには、鳥肌が立つほどの感動を覚えました。

冬に旅したい都道府県の1位は北海道

フォートラベルが提供する「冬の旅ランキング2006」によると、冬に旅したい都道府県の1位はダントツの北海道です。流氷観光、雪祭り、そして知床オーロラファンタジーなどで北国の冬を満喫し、北海道ならではの郷土料理も味わえ、新たな人気スポット、旭山動物園も後押ししているからとのこと。

雪国北海道は、一方では豪雪、地吹雪、つるつる路面での運転や歩行、家の前の除雪など、やっかいなことも多いですが、今年は、ノルディックスキー世界選手権の観戦などに触発され、来年こそは体力づくりの歩くスキーに挑み、雪に積極的に親しもうと思っております。

——かただ ゆたか 川崎重工業(株)北海道支社 上級専門職——